KDKニュース

KDK三つの原則
1．開拓伝道であること
2．教会を建てあげること
3．聖書信仰に立つ、教団、教派との協力

国内開拓伝道会
発行人　泉田　昭

〒352-0011
埼玉県新座市野火止4の8の28
電　話 048-202-1500
ＦＡＸ 048-202-1501

振替 00140-6-57493
No.119　2017年 9 月

「教会のインターン生との会話」

KDK委員　板倉邦雄

「神の賜物と召命とは変わることがありません。」（ローマ十一・二九）

今年、七月末の一週間、私たちの教会で寝泊まりしながらの神学生によるインターン（研修）がありました。

私に張り付いて、牧師の一週間を見学し実習するのです。神学生から次のようないくつかの質問を受けました。

（一）問「先生が、伝道牧会で一番大切にしている事は何ですか？」

答「それは、やはり説教ですね。『講壇を死守せよ』とは、神学校で説教学の先生から何度も言われました。羊は羊飼いの声を聞く（ヨハネ十・三）のですから、羊飼いであるイエス様の言を語ることを一番大切にしてきました。自分の考えや思想を、聖書を使って話したくなりますからね。」

（二）問「ほかに、先生が大切にしてきたことは何でしたか？」

答「教えること、交わることです。イエス様の宣教命令にある通りです。『また、わたしがあなた方に命じておいたすべての事を守るように、彼らを教えなさい』（マタイ二十八・二〇）ですから、礼拝後に成人クラスや、週日に七つのクラスを持っています。聖書を教える時こそ、深い交わりになりますね。」

（三）問「先生は、信者や未信者の相談に対して、どのように接していますか？」

答「私は、神学生の時に、相談（カウンセリング）の方法を三つ学びました。①支持的相談、②非指示的相談、そして③聖書を用いた相談です。私は、相談者と相談の内容によって、三つの方法をそれぞれ用いて相談にのって来ました。

（四）問「先生の四十五年間に渡る開拓伝道で、特に健康面で気をつけて来たことは何ですか？」

答「そうですね。早寝早起きです。朝四時に起きて、夜九時に寝るようにしています。規則正しい食事と適度な運動です。（体重を一定にキープします）歩くことと自転車で過ごして来ました。『伝道は体力である』と確信しています。

（五）問「最後に、先生のこれからの夢は何ですか？」

答「私は一生涯、伝道者として神様から召されたと信じています。『あなたは何事にも慎み、苦難を忍び、伝道者のわざをなし、自分の務めを全うしなさい。』（第二テモテ四・五）ですから、これからも開拓伝道者としての夢を持ち続けたいと願っています。

教会インターン生との一週間を通して、私はもう一度、伝道者としての賜物と召命を確認できました。

（千葉みどり台教会　牧師）

第二〇回ＫＤＫ開拓伝道セミナーの報告

二〇一七年四月二四日(月)～二五日(火)
会場・国立オリンピック記念青少年総合センター

ＫＤＫでは、開拓伝道者および開拓に関わる働きをしておられる方々とともに、「開拓伝道セミナー」を隔年で開催しています。第二〇回の節目となった今回は、二年前の前回と同じ「教会を建て上げる」を主題とし、三回の講演を「開拓伝道者の人格形成」と題して、日本バプテスト連合・玉川キリスト教会牧師の福井誠師に担当していただきました。

初日午後二時からの開会礼拝では、ＫＤＫ委員の村上宣道師が使徒の働き十二・四～一〇から、「教会は熱心に祈った。しかし、門を開きペテロを救出してくださったのは主である。それゆえ、人の能力や目に見えるものに頼るのではなく、開いてくださる主に頼ることこそ開拓伝道者に求められている。」と熱く語られました。

続いて、福井師による第一回目の講演「開拓者のための聖書的基礎」が行われました。旧約聖書のリーダーたちはそれぞれ弱さや欠点を持っていた。しかし神はご自身の目的を達成するために彼らを用いられた。教会を建て上げるのは、神のお働き。神はパウロを通してテモテやテトスの開拓をサポートされた。開拓においては、伝道者自身が整えられて行くことが何よりも必要。開拓伝道者が「神との良き時」を過ごすことによって、自身と群れが養われ、教会は徐々にではあっても確実に成長していく。福井師自身、早朝のデボーション「神との良き時」で受けた恵みを、毎日ブログで信徒に配信して分かち合っている。十年来欠かすことなく続けられているこのことが教会形成の基礎となっている、と語られました。

夕食後には「リーダーシップのための聖書的基礎」と題する福井師の第二回目の講演が行われました。ここでも聖書の示す原理、とくにキリストが示された再生産のモデル（求道者→新しい信仰者→成長している弟子→弟子を育てる人のサイクル）が与えられていることの大切さが具体的な例をもって語られました。また、リーダー自身が聖書的な信仰によって聖書的価値観を身に着けるなら、それが聖書的な行動を生み出し、教会の健康的な成長につながって行くことが示されました。

二日目は、ＫＤＫの支援母体であるホワイトフィールズ代表のスティーブ・ウィラー師のバイブルメッセージをもってスタートしました。その後、現在ＫＤＫの支援を受けて開拓伝道に携わっておられる4人の先生方にそれぞれのお働きの内容、祈りの課題、証しを語っていただきました。ご自身や家族の健康問題、子どものいじめと不登校といったこの社会が抱えている様々な課題の影響を受けながら、置かれた地で忠実に主を宣べ伝えている姿に励まされた同労者は少なくないと思います。

福井先生による3回目の講演は「自己管理と成熟のための聖書的基礎」と題してⅡテモテから語られました。一章から「牧会者の自己管理」、二～四章から「牧会者の成熟」について学びましたが、おもに牧会者自身の情緒的な面における成熟の大切さが強調されていました。最後に、ピーター・スキャゼロ著「情緒的に健康な教会をめざして」から、伝道者が自分自身に当てはめ、会衆に適用する6つの原則が紹介されました。①水面下を見る。②過去の力を打ち破る。③弱さを抱えたまま生きる。④限界と言う賜物を受け入れる。⑤喪失と悲しみを受け入れる。⑥キリストの受肉を模範として人を深く愛する。

閉会礼拝は、ＫＤＫ委員の板倉邦雄師がご自身の開拓の経験をもとに励ましのメッセージを語られました。

最後になりましたが、今回もベック・由美子さんと高菜美香さんによる賛美リードが、主のご臨在と、主への期待を高めてくださったことを覚えます。

嵐　時雄（ＫＤＫ委員）

セミナースナップ

講師の福井誠師
（写真はCHRISTIAN TODAYより提供）

中島秀一師による開会の挨拶

朴柱炫師による奈良県香芝市での
開拓伝道の証し

ホワイト・フィールズ代表スティーブ・
ウイラー師と通訳の丸山悟司師

グループでの分かち合いと祈り

斎藤和彦師による秋田県横手市での
開拓伝道の証し